



↑ ① 宇都宮二荒山神社

わかるかな？

二荒山神社に来たことがある人物は誰でしょう？

- ① 源頼朝 ② 武田信玄 ③ 織田信長



2 文武に秀でた宇都宮氏

ことば

社務職

神社の事務全般をつかさどった神職の長。

▶ 宇都宮氏の登場

平安時代の終わり頃から安土・桃山時代までの約400年間、二荒山神社の社務職を兼ねて、宇都宮の地を治めたのは宇都宮氏の一族でした。その間、鎌倉幕府の重要な役職についたり、和歌の文化を華開かせたりするなどの業績が知られています。

社務職である宇都宮氏が神社の南側に居館を構えたことにより、まちは、二荒山神社と宇都宮城を中心に発展していきます。また、宇都宮城の東側を通る鎌倉から東北に向かう奥大道沿いには、宿場が発達しました。

ここでは、宇都宮氏の活躍について調べてみましょう。



↑ ② 中世宇都宮城周辺と道想定図

- 百人一首の成立に、宇都宮氏は関係があるって聞いたことがあるよ。
- 宇都宮氏の中には、元軍襲来を迎え撃つ総大将として九州に出陣した人もいそうだよ。
- 今の宇都宮城址公園が宇都宮城だけど、田下町・田野町の多気城や、竹下町の飛山城は関係があるのかな？

動画を
見てみよう！



学習問題

宇都宮氏とは、どんな一族だったのだろうか。



世紀	BC/A.D.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	
	縄文	弥生	古墳	飛鳥	奈良	平安	鎌倉	室町	戦国	江戸	明治	昭和	平成	令和									
															南北朝	安土桃山							

▶ 二荒山神社と宇都宮氏

二荒山神社は、宇都宮の歴史に深く関わっています。

ここでは、二荒山神社と宇都宮氏の関係について見ていきましょう。

① 二荒山神社

二荒山神社の記録によると、「下之宮」の地(現在の馬場通り3丁目)に豊城入彦命(天皇の命令で東国をまとめたといわれる人物)をまつたのがはじまりとされ、その後、838(承和5)年に現在の場所に社殿が移されたと伝えられています。

まつられている豊城入彦命は、武芸に優れていたとされ、古くから多くの武将に信仰されていました。

東北地方でおきた前九年の役(1051～1062年)をおさめた源義家や、鎌倉幕府を開いた源頼朝など名だたる武将が戦勝祈願のために二荒山神社を訪れています。

また、江戸幕府を開いた徳川家康は、本殿の階段につけられた擬宝珠を奉納しています。

② 藤原宗円と二荒山神社の関係

宇都宮氏の系図によると、宇都宮氏初代とされる藤原宗円は、平安時代の前九年の役で源頼義・義家父子につき、二荒山神社で戦勝の祈願を行いました。その功績により二荒山神社の社務職になったといわれています。その後、宇都宮氏は代々二荒山神社の社務職を務めるようになりました。

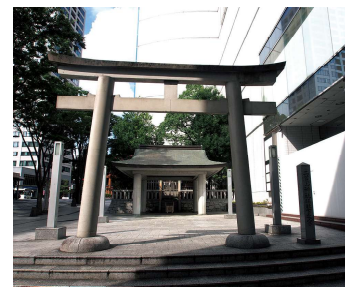
▶ 鎌倉幕府の有力御家人 宇都宮氏

宇都宮氏は、鎌倉幕府の有力御家人となり、評定衆や引付衆などの重要な役職につき活躍しました。また、独自の和歌集を作るなど文化の面でも才能を発揮しました。このような文武に秀でた宇都宮氏の歴史について見ていきましょう。

① はじめて宇都宮を名乗った 3代宇都宮朝綱

朝綱は、源頼朝から、「宇都宮明神檢校」としての立場が認められたほか、「宇都宮」の名字をはじめて名乗りました。また、1189(文治5)年の源頼朝による奥州合戦(奥州藤原氏との戦い)に参加し、その勝利に貢献しました。

宇都宮氏は幕府の有力御家人として鎌倉に屋敷を構え、頼朝以後も歴代将軍に仕えていきました。



↑ ③ 下之宮



↑ ④ 徳川家康が奉納したとされる勾欄擬宝珠(市指定文化財)

「下野国河内郡宇都宮大明神御建立 征夷大將軍源家康」と隆刻されている。

ことば

評定衆

鎌倉幕府の最高決議機関。

引付衆

評定衆の下に領地訴訟等を迅速・公正に行うために設置された機関。

檢校

社寺やその行事を総裁する職。



↑ ⑤ 宇都宮朝綱像(「古画類聚 宇都宮朝綱像(ほか)部分、松平定信(編)、東京国立博物館蔵)



↑ 1 ● 宇都宮頼綱(蓮生)像(三鈴寺蔵)



↑ 2 ● 宇都宮景綱像(「古画類聚 宇都宮朝綱像ほか」部分、松平定信(編)、東京国立博物館蔵)



↑ 3 ● 清蔵寺の鉄塔婆(国重要文化財)
8代城主宇都宮貞綱が、亡き母の13回忌の供養のために奉納した鉄塔婆。

2 百人一首ゆかりの 5代宇都宮頼綱

朝綱の孫である頼綱は、幕府にそむいた疑いをかけられ、その疑いははらすために、出家して「蓮生」と名乗るようになりました。蓮生は京都に拠点を移した後は、浄土宗の法然などから学び、信仰心の厚い武将として活躍しました。

また、歌人としても才能に恵まれ、この時代の有名な歌人である藤原定家と親交をもちました。蓮生は京都の小倉山にある山荘の襖に貼る色紙和歌も藤原定家に選んでもらいました。その選ばれた和歌が、後に百人一首のもととなったといわれています。

3 宇都宮弘安式条を制定 7代宇都宮景綱

景綱は、1269(文永6)年に引付案に、1273年には評定衆につきました。

また、鎌倉幕府の武家法である「御成敗式目」にならって「宇都宮弘安式条」を制定しました。8代執権北条時宗が死去すると、多くの御家人とともに出家しました。

4 元軍討伐の総大将 8代宇都宮貞綱

貞綱は、1281(弘安4)年の元軍の襲来に対し日本側の総大将として、約6万人の兵を率いて九州に出陣しました。暴風により、元軍の軍船の大半は海に沈み、実際に元軍と戦うことはありませんでした。しかし、貞綱が総大将に任命されたことは、宇都宮氏に対して鎌倉幕府の信頼が厚かったことを物語っています。



▶ 室町幕府の始まりと宇都宮氏

鎌倉幕府が倒れ、後醍醐天皇による建武の新政が短期間に終わりをつげた後、足利尊氏による室町幕府が開かれ、室町時代が始まります。

ここでは、鎌倉幕府が倒され、南北朝の争乱の中で、宇都宮氏がどのようになったのかについてみていきましょう。

1 坂東一の弓矢とり 9代宇都宮公綱

鎌倉時代末期になると、幕府を倒そうとする動きが活発になります。宇都宮氏も幕府軍として京に向かい、楠木正成らの反幕府軍と向かい合いました。公綱は、「坂東一の弓矢とり」として有名であったことから、楠木正成は直接の戦いを避けました。宇都宮氏がいかに恐れられていたがわかります。



2 足利尊氏を助けた 10代宇都宮氏綱

約60年間に及んだ南北朝の争乱では、氏綱は重臣である芳賀氏とともに、尊氏側につき活躍をしました。尊氏と弟の直義が対立した際も尊氏側として戦いました。その功績により、氏綱は越後(現在の新潟県)、上野(現在の群馬県)の守護となりました。

しかし、室町幕府の出先機関である鎌倉府内の勢力争いに巻きこまれ、10年ほどで守護職を解任されてしまいました。

▶ 戦国の世の宇都宮氏

戦国の世になると、越後の上杉氏や、小田原の北条氏が下野国に侵攻してきました。それに対し、宇都宮氏は、常陸の佐竹氏など周辺領主との結束を固め、生き残りを図っていきました。

1 豊臣秀吉に仕えた 22代宇都宮国綱

16世紀後半になると、小田原の北条氏が宇都宮にたびたび侵攻し、宇都宮城下が焼かれました。そのため、宇都宮氏は一時期、西方の多気山(田下町・田野町)に拠点を移しました。

1590(天正18)年、国綱は豊臣秀吉が小田原の北条氏を攻める際に、秀吉側として戦いました。秀吉は北条氏を倒した後、宇都宮の地を訪れ、関東や東北の武将にさまざまな命令を出しました。

その後、国綱は旧領をそのまま支配することを許され、豊臣政権下の大名となりました。さらに、1592(文禄元)年の朝鮮出兵にも参加しました(→p.29)。しかし1597(慶長2)年、突然改易されてしまい、長きにわたる宇都宮氏による支配が途絶えました。

2 宇都宮氏の改易後

宇都宮氏が改易されると、豊臣秀吉の命により浅野長政が宇都宮城の城代を務め、その後、蒲生秀行が城主となりました。



↑ 4 ● 宇都宮公綱像
『下野国誌』巻九、国立国会図書館蔵

『太平記』に記された宇都宮公綱の記述「(前略)宇都宮は、坂東一の弓矢取り(武士)である。紀清両党の兵士たちも、戦場で命をすてることなど恐れていない(後略)」

※紀清両党…「紀」は益子氏、「清」は芳賀氏のこと。宇都宮氏の重臣で、宇都宮氏と姻戚関係を結んでいました。

ことば

◆ 守護

鎌倉・室町両幕府の職制で、国ごとに置かれた。軍事や国内の統制の役割を与えられた役職。



↑ 6 ● 多気山

ことば

◆ 改易

刑罰として官職や身分を取り上げること。

まとめる ひろげる



平安～安土桃山時代まで、宇都宮氏は長きにわたって、宇都宮の地を治めました。宇都宮氏は鎌倉時代には幕府の要職に就き、有力御家人として活躍し、元軍の襲来では、日本側の総大将に任命されました。また、室町時代には、幕府を開いた足利尊氏や天下統一を果たした豊臣秀吉を支えた武家でした。一方で、二荒山神社の神官であり、独自の和歌集をつくる業績もあり、文芸にも武芸にも秀でた一族でした。

22代続いた宇都宮氏

平安時代から安土桃山時代まで続いた宇都宮氏

初代藤原宗門から、豊臣秀吉に改易された22代宇都宮国綱まで、長きにわたり宇都宮を治めた宇都宮氏について見ていきましょう。

時代	代	当主名(読み)	没年齢	主なできごと	
平安	1	藤原宗円 (そうえん)	不明		
	2	藤原宗綱 (むねつな)	不明		
鎌倉	3	宇都宮朝綱(ともつな)	82歳	源頼朝の奥州合戦に従軍する	
	4	宇都宮業綱(なりつな)	27歳		
	5	宇都宮頼綱(よりつな)	88歳	藤原定家に別荘の色紙和歌を頼む	
	6	宇都宮泰綱(やすつな)	59歳	鎌倉幕府の評定衆となる	
	7	宇都宮景綱(かげつな)	64歳	宇都宮弘安式案を制定する	
	8	宇都宮貞綱(さだつな)	51歳	元軍の襲来に大将軍として出陣する	
	9	宇都宮公綱(きんつな)	55歳	楠木正成軍と対陣する	
	室町	10	宇都宮氏綱(うじつな)	45歳	上野・越後の守護職となる
		11	宇都宮基綱(もつな)	31歳	小山義政と戦い戦死する(茂原の戦い)
		12	宇都宮満綱(みちつな)	32歳	汗かき阿弥陀を奉納する
13		宇都宮持綱(もちつな)	28歳	上総の守護職となる	
14		宇都宮等綱(ともつな)	41歳	鎌倉公方足利成氏に敗れ白河に逃げる	
15		宇都宮明綱(あきつな)	21歳		
16		宇都宮正綱(まさつな)	31歳		
17		宇都宮成綱(しげつな)	48歳		
18		宇都宮忠綱(ただつな)	31歳	結城政朝と戦い敗れる(猿山の合戦)	
19		宇都宮興綱(おきつな)	61歳		
安土桃山	20	宇都宮尚綱(ひさつな)	37歳	那須高資と戦い戦死する(五月女坂の戦い)	
	21	宇都宮広綱(ひろつな)	32歳	上杉謙信の関東出兵に従う	
	22	宇都宮国綱(くにつな)	40歳	朝鮮出兵のため肥前名護屋に出陣する	

宇都宮の由来と二荒山神社

なぜ宇都宮っていうの？

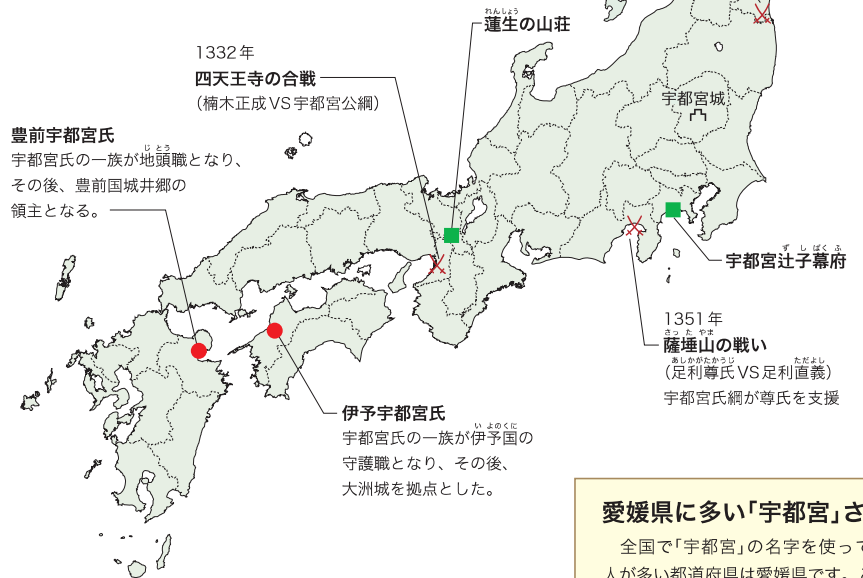
宇都宮の名前の由来は、二荒山神社に関係しています。二荒山神社は、古くから宇都宮大明神と呼ばれていました。なぜ、「宇都宮」と呼ばれるようになったのかははっきりとは分かりませんが、ここではいくつかの説を紹介します。

- 遷しの宮…下之宮から現在の地白ヶ峰に移されたことから
- 一之宮…下野国の一之宮の「いちのみや」がなまって
- 征討の宮…東北を征討するために立ち寄ったことから
- 鬱の宮…木々がうっそうとしていることから

※諸説あります。

全国に広がる宇都宮氏の足跡

中世の宇都宮氏は、1189(文治5)年の源頼朝が奥州藤原氏を倒す阿津賀志山の合戦や鎌倉幕府の滅亡に繋がる1332(正慶元)年の四天王寺の合戦など、歴史の大事な場面に登場します。また、鎌倉や京都にも足跡を残しているほか、一族が豊前(大分県)や伊予(愛媛県)でも活躍をしています。



豊前宇都宮氏

宇都宮氏の一族が地頭職となり、その後、豊前国城井郷の領主となる。

伊予宇都宮氏

宇都宮氏の一族が伊予国の守護職となり、その後、大洲城を拠点とした。

阿津賀志山の合戦

1189年、源頼朝は弟源義経をかくまっていた奥州藤原氏を倒すため、奥州に進攻します。その際、宇都宮朝綱軍と合流し、二荒山神社に戦勝を祈願します。

その後、東北に向かった頼朝軍は、阿津賀志山で藤原国衡軍と戦います。このとき、宇都宮朝綱軍が奇襲攻撃を行い、頼朝軍の勝利に貢献しました。

→①阿津賀志山の合戦の様子(模型)



(福島県立博物館提供)

愛媛県に多い「宇都宮」さん

全国で「宇都宮」の名字を使っている人が多い都道府県は愛媛県です。これは、宇都宮氏が伊予国の守護になったことが由来と考えられます。

鎌倉幕府と宇都宮氏

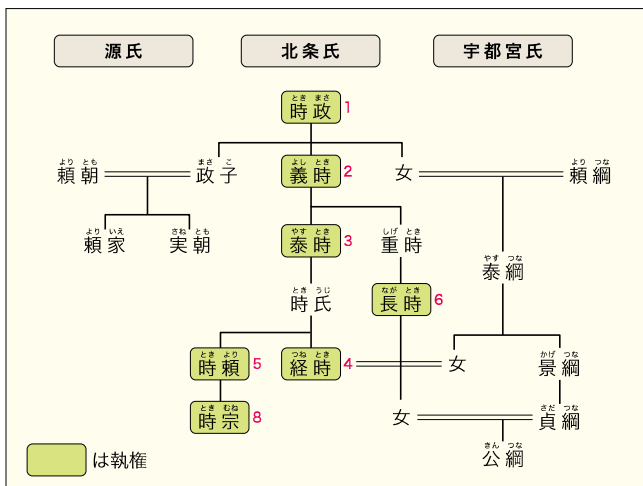
1 執権北条氏と宇都宮氏

宇都宮氏は、鎌倉幕府の有力者である執権北条氏と婚姻関係を結ぶことにより、幕府内での地位を高め、評定衆や引付衆など鎌倉幕府の要職を担いました。

宇都宮氏が北条氏と深く結びついてきたようだね。



1-1 北条氏との関係を示す系図



2 宇都宮稲荷神社と宇都宮辻子

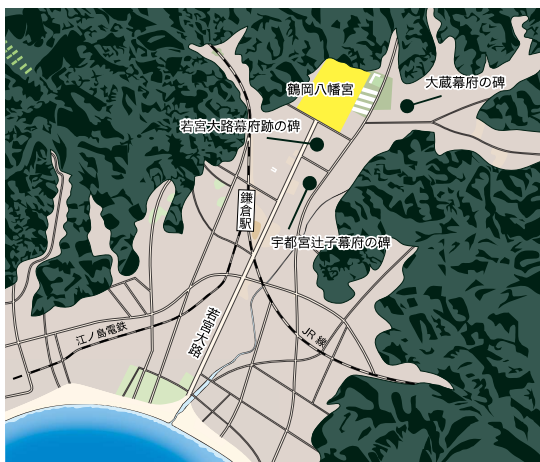
神奈川県鎌倉市に宇都宮稲荷神社という名前の神社があります。もともとは、鎌倉幕府の有力御家人である、宇都宮氏の館があった場所で、その前の通りは宇都宮辻子とよばれていました。宇都宮辻子に面した場所に幕府が11年間置かれたこともあり、宇都宮辻子幕府とよばれていました。今では、鎌倉幕府と宇都宮氏の関係の深さを物語る神社として当時をしのぶことができます。



1-2 鎌倉にある、宇都宮稲荷神社

3 鎌倉幕府の変遷

鎌倉幕府とは、源頼朝が鎌倉に開いた武家政権を指します。元々「幕府」とは将軍の居所または陣営を指す言葉で、鎌倉時代にはその場所が移動しました。それぞれの幕府は、頼朝が幕府を開いた大蔵幕府(1180~1225年)、その後、宇都宮氏の居館近くの宇都宮辻子幕府(1225~1236年)、さらに最後の若宮大路幕府(1236~1333年)と場所が移動しました。

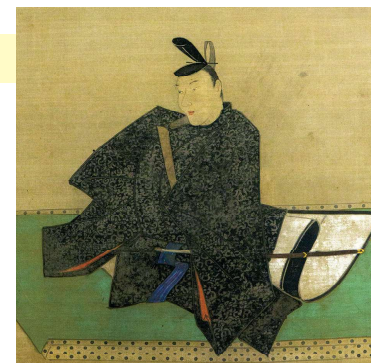


1-3 幕府の置かれた場所

宇都宮氏の文芸活動

1 宇都宮頼綱(蓮生)と藤原定家

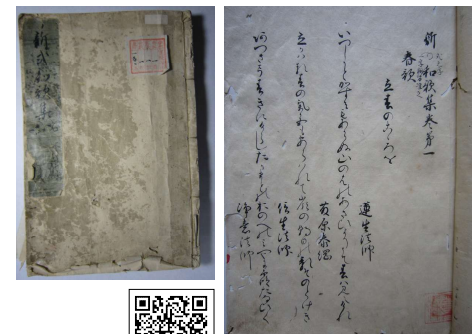
5代頼綱の母は平清盛のいとこに当たる平長盛の娘であることから、頼綱は子どものころから和歌に親しんでいました。出家し、蓮生を名乗ると、和歌を通じて親しくしていた藤原定家の子為家のもとに娘を嫁がせるなど、より親しい関係となりました。そのような関係から、藤原定家は蓮生より依頼されて小倉山にある山荘の襖に貼る障子歌色紙を贈りました。これが、後の小倉百人一首のもととなります。



1-4 藤原定家の肖像画(常寂光寺蔵)

2 宇都宮歌壇と新式和歌集

宇都宮歌壇は鎌倉時代に成立した歌壇の一つで、京都・鎌倉と並び日本三大歌壇の一つともいわれています。歌壇の中心となったのが頼綱とその弟の塩谷朝業、甥の笠間時朝などの宇都宮一族でした。このような文芸活動は6代泰綱・7代景綱・8代貞綱にも引き継がれ、宇都宮氏を中心に京都・鎌倉の歌人の和歌を収録した『新式和歌集』が作られました。



1-5 紙本墨書新式和歌集(二荒山神社蔵)

ことば

歌壇 歌人たちの社会。

宇都宮氏の宗教活動

1 僧侶としての蓮生

蓮生は浄土宗の法然を尋ねて、その後弟子となります。法然の死後はその弟子の証空を師とし、証空が亡くなると遺言に従って遺骨を京都の西山に葬り、多宝塔を建てました。その一角の往生院にて師の教えを守り、82歳で生涯を閉じました。



1-6 法然上人像(二尊院蔵)

2 宇都宮氏ゆかりの仏像

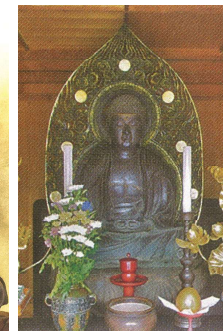
宇都宮市内には、貞綱によって開かれた興禅寺の本尊釈迦如来坐像や景綱が開いた東勝寺(廃寺)からの客仏と伝わる普賢菩薩坐像、満綱が開いた長楽寺(廃寺)からの客仏と伝わる銅造阿弥陀如来坐像(汗かき阿弥陀)など、宇都宮氏ゆかりの仏像が今に伝わっています。



1-7 釈迦如来坐像(興禅寺蔵)



1-8 普賢菩薩坐像(宝蔵寺蔵)

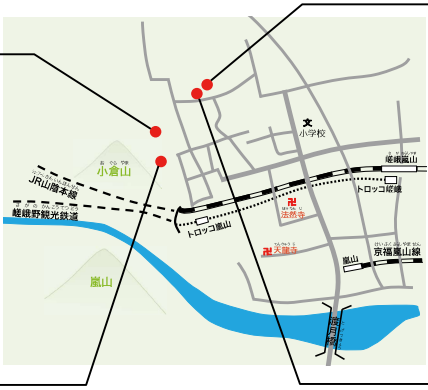


1-9 銅造阿弥陀如来坐像(一向寺蔵)

京都で見る宇都宮ゆかりの地



二尊院
藤原定家の山荘があったといわれる場所の一つです。



常寂光寺
定家の山荘があったといわれる場所の一つです。ここには「藤原定家山荘址」、「小倉百人一首編纂之地」と書かれた石碑があります。



定家の山荘があったといわれる場所の一つです。



中院山荘跡
蓮生の山荘があったといわれる場所です。蓮生は、ここにあった山荘の襖に貼る色紙歌を定家に依頼しました。

豊臣秀吉と宇都宮国綱

1 豊臣秀吉の宇都宮仕置き

豊臣秀吉は1590(天正18)年に小田原の北条氏を倒し、天下統一を果たします。その後、宇都宮を訪れ、関東や東北の武将たちに様々な命令を出しました。これを「宇都宮仕置き」といいます。その中の一つに「破却令(城を取りつぶす)」があり、飛山城もこの命令により廃城になったと考えられます。



↑ 豊臣秀吉の経路

2 豊臣秀吉の朝鮮出兵と宇都宮国綱

全国を統一した豊臣秀吉は、2度にわたって朝鮮に大軍を送ります。1592(文禄元)年の朝鮮出兵の際には、宇都宮国綱ら500人が名護屋城(佐賀県唐津市)に参陣しています。国綱は1597年に突然改易された後も出兵をしましたが、秀吉が途中で亡くなり、宇都宮家を復興させることはできませんでした。



→ 名護屋城陣跡図

宇都宮家中をまとめるための宇都宮弘安式条

先人の知恵と工夫

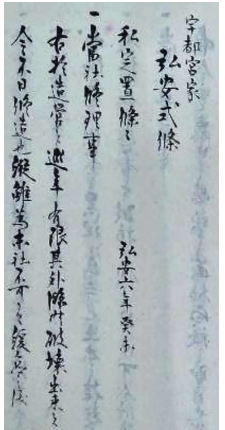
「宇都宮弘安式条」は、1283(弘安6)年に宇都宮景綱が制定しました。この法は、鎌倉幕府の武家法である「御成敗式目」の影響を受けて成立しました。武家法としてはさきかげの的なもの一つです。

その内容は、第一条から第七十条まであり、社寺に関するきまり、裁判方法に関するきまり、訴訟に関するきまり、幕府との関係に関するきまり、一族・郎党に対する統制策に関するきまりがあります。宇都宮氏は代々宇都宮二荒山神社の社務職であったことから、ほぼ三分の一が社寺に関するきまりで占められています。景綱は鎌倉幕府の評定衆で「御成敗式目」に詳しく、これを参考に宇都宮家独自の法をつくり家中の統制を図りました。

◆ 家中 武家および家臣などの総称



↑ 1 御成敗式目 (栃木県立博物館提供)
執権北条泰時が中心となり、源頼朝以来の先例や慣習等をもとに制定された武家社会のための法令です。



↑ 2 弘安式条『宇都宮史』(個人蔵)
原本は失われていますが、江戸時代後期の『宇都宮史』や『宇都宮志料』にその写本が引用されています。

3 篠井金山

1598(慶長3)年の豊臣氏蔵納目録によれば、諸国の金山・銀山から秀吉に献上された黄金は約3400枚で、その中に浅野長政が、下野宇都宮領黄金山より黄金を納めたことが記録されています。この時の浅野長政は、宇都宮国綱が改易となった後の宇都宮城代でした。

宇都宮の北西部の篠井地区にはガンガラ山と呼ばれた山があり、金が採掘されていました。この地区には金山の坑夫によって歌われていた「篠井の金堀唄」が今に伝わっています。

「篠井の金堀唄」
(宇都宮市指定無形文化財)

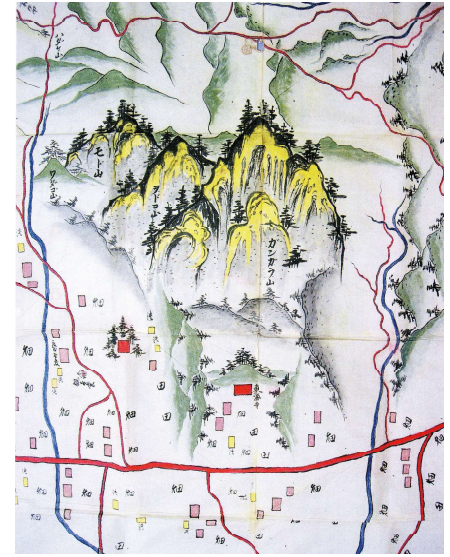
ハ 曇るガンガラ山の山よ
星に黄金が流れ出る チンチン

ハ 佐竹奉行は己等の主よ
恵みあつきて精が出る チンチン

ハ 右に鍾持ち左に打金
一つ打つ度火花散る チンチン

ハ 坑夫さんなら来ないでおくれ
一人娘の気をそえる チンチン

ハ 夫婦揃って黄金を掘れば
女房笑顔で背負い出す チンチン



↑ 6 篠井村絵図 (個人蔵)

